

【授業科目】基礎病態学

Basic Pathology and Clinical Laboratory

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森 啓至、高崎昭彦、大島 茂 小菅優子、杉浦 諭、榎本嘉彦 鈴木真紀子	1年次 後期	必修	1	30	講義	あり	巻末 記載	可
授業概要 (内容と進め方)及び 課題に対する フィードバック 方法	<p>授業概要：疾患を発生異常、進行性病変や退行性病変などの代謝異常、腫瘍性疾患、炎症と免疫、感染症、循環障害、成長と老化に分類し、臨床病態を学ための基礎を学習する。</p> <p>本講義では、人体組織の機能障害を臓器別に分類し、様々な疾患の臨床病態を学ための土台となる基礎病態について複数の教員が病理学的な視点から講義する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法：課題を課した場合には担当教員が解説し返却する。</p>							
授業の 位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が 到達すべき 目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病気および病的状態を分類して説明できる。 ・ 病気の原因、発生の仕組みを学び、生体の反応や経過の特徴、転機を説明できる。 ・ 病態の把握における臨床検査の仕組みと数値を理解して説明できる。 							
時間外学習 に必要な 内容・時間	<p>第1～15回事前学習：教科書の該当頁を事前に読んでおくこと。(各30分)</p> <p>第1～15回事後学習：講義で学習した内容を復習しまとめる。(各60分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>《総論》</p> <p>第1回 病気と病理学 (担当：小菅)</p> <p>第2回 病気の原因、仕組みの概要、公害 (担当：高崎)</p> <p>第3回 発生と先天異常 (担当：大島)</p> <p>第4回 組織学的変化の基礎知識 (担当：杉浦)</p> <p>第5回 代謝障害 (担当：高崎)</p> <p>第6回 循環障害 (担当：榎本)</p> <p>第7回 炎症 (担当：森)</p> <p>第8回 免疫とアレルギー (担当：森)</p> <p>第9回 感染症 (担当：森)</p> <p>第10回 腫瘍総論 (担当：小菅)</p> <p>第11回 腫瘍と遺伝子検査 (担当：大島)</p> <p>第12回 成長、加齢と老化 (担当：高崎)</p> <p>《各論》</p> <p>第13回 血液疾患と血液検査 (担当：鈴木)</p> <p>第14回 呼吸器の異常と検査 (担当：榎本)</p> <p>第15回 循環器の異常と検査 (担当：榎本)</p>							森 高崎 大島 小菅 杉浦 榎本 鈴木 が授業計画に 沿ってオムニ バスで担当
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。</p> <p>学期末定期試験 90% 小テスト 10%</p>							
教科書	<p>系統看護学講座専門基礎分野疾病のなりたちと回復の促進(1) 「病理学」(医学書院)</p>			参考書等	<p>病気がみえるシリーズ(メディックメディア)</p> <p>看護のための臨床病態学(南山堂)</p>			
学生への 助言等	<p>病気がどのような仕組みによって発生していくか、総論を重要視して講義をします。正常と異常を区別して、病態と臨床検査を結び付けて理解できるようになりたいと思います。</p> <p>臓器別の各論では全身の病態に深く関与する臓器について講義をしますが、講義で取り上げることができなかった部分は、各自で自習してください。そこで出てきた疑問点などは、遠慮なく質問してください。</p>							